魁梅枝曽我（さきがけばいかえそが）

寅春

前

鶴

へ13
2483
21

特別
へ遠
2483
21

原本ハ老實の盛衰記を趣向へ仇なる
十字亭三九作
異風さつまうの新作
化粧坂の。あらそ〳〵

蟠龍鏑
産衣鎧

魁梅枝曽我初編上巻
全部十二冊もの始
鶴喜新版

世界ハ名ゐ〳〵大磯の。虎と見く
歌川國安画
五郎が復讐の誉名
石にうり箭の根

京都府立図書館

壹之巻

序

昔々の鎌倉は當時のゐなかにて春の寢ひ〳〵千代も。
雲に羽ごの手ごゝろ。なもの對面の故事にも。我ゆゑ愛に露。
南川流は隈取とゝの別れ小ゝ年作者ぶんの暖の中村小閑
てふ梅の枝ふ枝鬼王は苔むす義ぐん春に迎ひとゝ八幡を元。
年々歳々紀相似さを歳〳〵年〳〵曾我同ゝかゞと。眞に春の物
見尖殘の虎ヒ新板文稿異社ぶりでまア五郎あるとゝ文

文政十二丑春稿脱
仝　十三寅春新版

十字亭のあらそ
糸井三九

梶原源太
景季

おつゑ
枝を
梅
見まる
色
かゝ
うはあんの
竜錦舎

化粧阪の遊君
梅ヶ枝後
虎御前

熊阪
張樊
鯨族
磨針
太郎
改号
海賊の
跡枝
日本
駄左
門

花輪堂
三九
出のふるたる石山寺に
かくれて年をすごすはや
ぢさんの乃こゑまくさこそ
女順禮
黒川の
渡瀬
近江國
石山寺の
山門

ロざ紙
さく
こがた
ゆぎの
こくら
あくと
いうく
みます
乃
家
北
源家
動き
器
蟠
竜
鎧

かぶく
矢
十
字
亭
糸丈
化粧阪の
遊君
少持
始唐糸が
娘
此花
曽我五郎
時致
幼名
笹王九

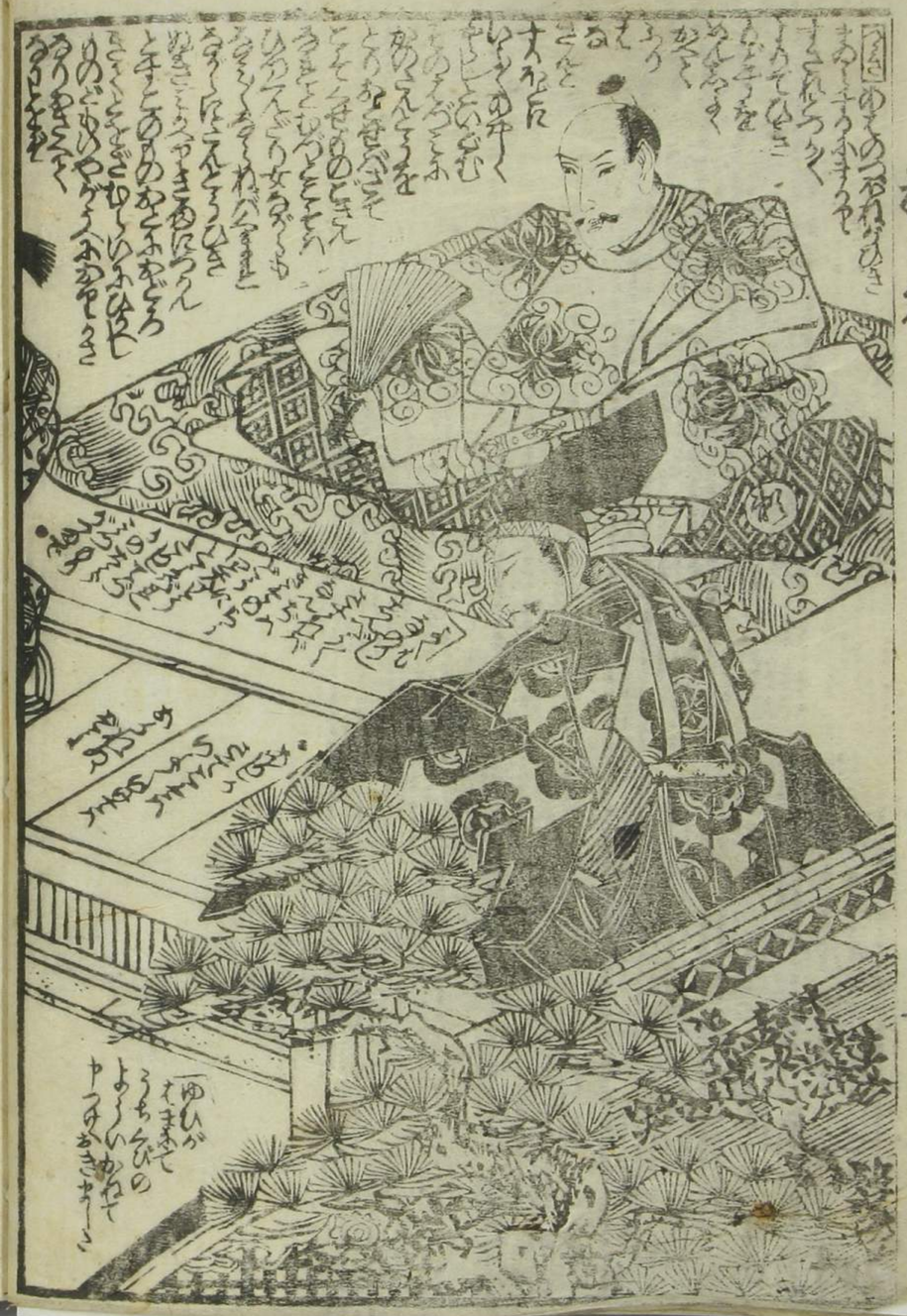
詞源あらえん

昔とろのはらせう　ふるふまきこの　ぶとうひにたがうてうきう　三年涙のようとまきあうさぶそ　ふにふるてのさとにこのつくりまして　ふりとそうのうの太かめうことぐくれとに　あやしかるてどのとそもちらしろ　そのころきそのはころふふきとさう　かうきこの太せうたをいせひかさひの　さしのがうことくひそまんぎこの　太てきこれさうにりのくがうと行ず　つうれをたちくかりきるはげふ　きそかるのくきこのせのいこに　めうとてこどうるどうりとうう　きうこいくもさうまり　ゆうてきこのやをぶどうの　こうんるれどもぶどがくの　ちにはうとかはしゆく　はをひにのうかつふれこう　ふげうてれとをもるいどうは　まこはあんぶやぶつかなさち　こがちきあうりんあどあれうし　るひつこうるれのをいくあへば　るんどうくきこいけのきりどさも

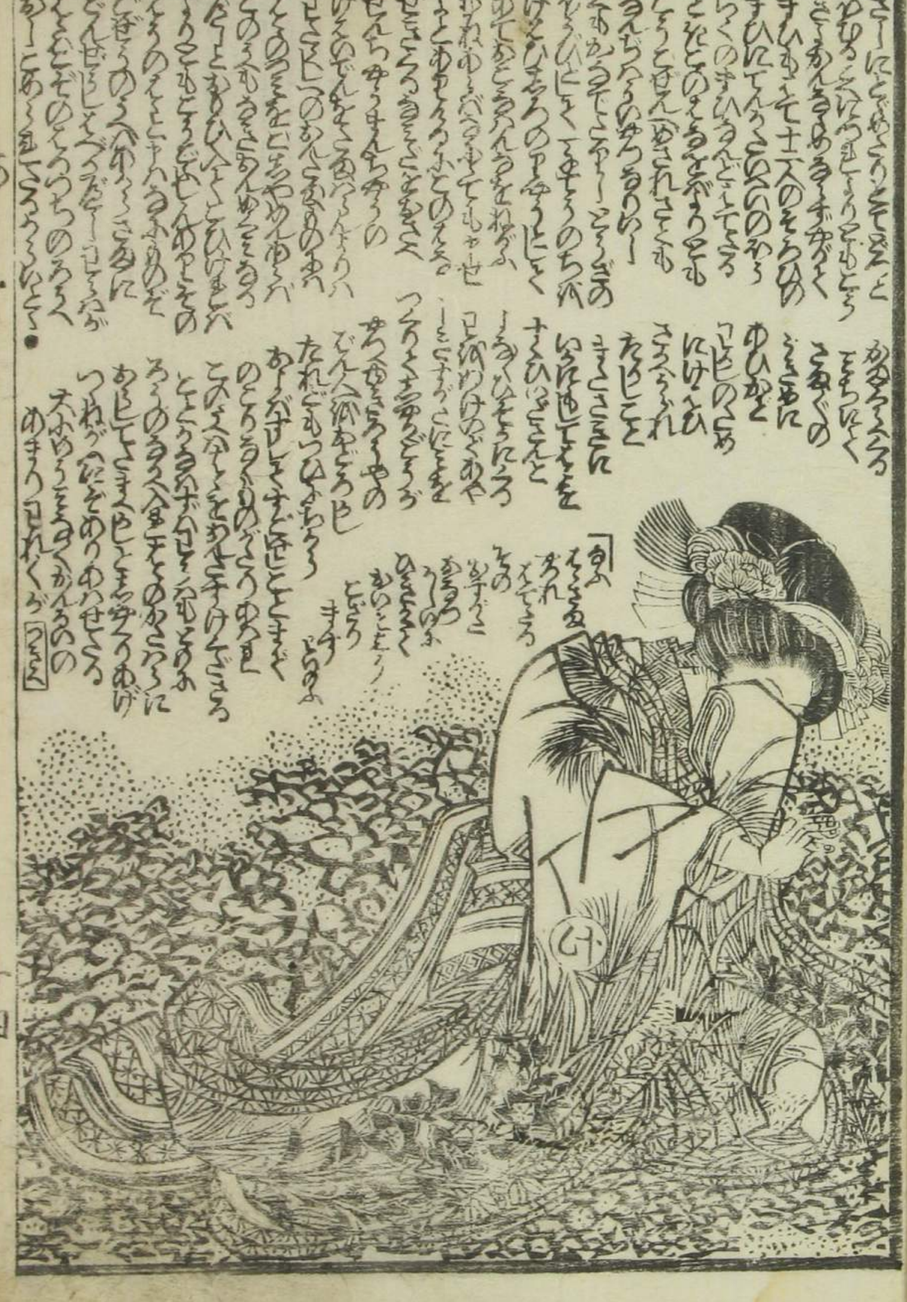
▼さるふまきこれ　昔とろのはらせう　三年涙のようとまきあうさぶそ　ふにふるてのさとにこのつくりまして　ふりとそうのうの太かめうことぐくれとに　あやしかるてどのとそもちらしろ　そのころきそのはころふふきとさう　かうきこの太せうたをいせひかさひの　さしのがうことくひそまんぎこの　太てきこれさうにりのくがうと行ず　つうれをたちくかりきるはげふ　きそかるのくきこのせのいこに　めうとてこどうるどうりとうう　きうこいくもさうまり　ゆうてきこのやをぶどうの　こうんるれどもぶどがくの　ちにはうとかはしゆく　はをひにのうかつふれこう　ふげうてれとをもるいどうは　まこはあんぶやぶつかなさち　こがちきあうりんあどあれうし　るひつこうるれのをいくあへば　るんどうくきこいけのきりどさも

▼あんをきさるふまきこれ　あひをこのひあをさこれめわせく　すくこうことばひとをさこにるきれ　しこうばかりいとのんどのなれを　ゆうめうるとすあうにつうるり　りとうりにこれをうればすけどの　ことふるさけをかけこまこん　そばちうくゆつうるまこん　おばるわつにうどにこの　すをかうはとへひそうふ　あうとこうりのうこいひ　あうりまばうりりうどこと　みりにうをこことすけどのハ　そのこうるどひにうず　今分りはあふこるとふうず　しこふるこうとひあこうんこ　すけどのうそばちうくあうはこいひ　るうりいくにどうるるうう　つこかくしりをこのせすけ　どの孤にとをしまのくせ　りひきくまこゆうこるうば　こまこれかこうふまうるべこそいに　つこうろかうるざこうとふ

義仲粟津の深田のゆにて石田為久が射られ戦死す



○此義
寿ひを
かるで
神
いさえ
也



くのあのこけ
にのまきにあ

書物錦繪暦問屋仙崔堂鶴屋喜右衛門板

東京傳作
忠臣水滸傳 繪入讀本十冊 忠臣義の義士を豪傑水滸伝にうつし、編をうつる毎に名文の法古雅

稗史水滸傳 初編より六編迄共十二冊賣出し 山東京山譯 歌川國芳画

水滸傳劇場雛形 初編鶴屋南北作 四冊 歌川國貞画

稗史水滸傳 七編より十二編迄寅新板 柳亭種彦譯 共十二冊弘化年十月発兌 歌川國芳画

水滸傳豪傑雙六 歌川國芳画 画面ふいろいの奥おもしろきすごろく

繪本三國志 初編八冊出来 重田貞一譯 歌川國安画

繪本漢楚軍談 初編より五編迄通俗漢楚軍談を和かさに引かえ平仮名にて漢文まじり 共三十三冊出来 歌川國安画

十字亭三九作
歌川國安画

後

魁曽我

下之巻

十字亭
糸井三九著述
一鳳齋
歌川國安輝毫
庚寅春新板
仙鶴堂上梓

星月夜鎌倉山ゆくぞの大磯小のそ
石上古い時代を當代の世話に。
ひいくろ絶くる胃我そのがさア
其混交も愛あた春の彼吉例ゐる在言
綿綿と溪山おぼろに山吹色散るハ三百両
ぼひふのるうてあつ寒いろ楊枝喜悦の眉
曲物の鍋もうけるる。源太ゐ也水姓を。
その僥倖の原へと問てゐ。見も
則ち婦の[illegible]ゐ物編の六冊

湖月抄

表紙川勾芳作
琴曲集

美艶仙女香

美艶仙女香

十字亭三九著

一圓齋國安画

文政十三庚寅春　鶴屋喜右衛門板

御免江戸暦開板所

梅年十月下旬頃より賣初めかい

載陽帖　全一冊　南山禪師書　四季和文章　石摺

新撰日本名所之繪　唐紙摺一枚　蕙齋鍬形絵真筆

新撰女古状揃　医生竹　大本半紙本　両品出来　高井蘭山編撰

選塊紙料　柳亭種彦遺筆　古画入二冊

田喜菴輯　芦の[illegible]

裝丰羽[illegible]　玄同放言　初編二編　共三冊　近刻

隨筆　玄同放言　初編二編　共三冊　近刻

右之三編三冊、[illegible]

芳州集 全二冊 校訂 荻生徂徠 同輯

蘭集 全二冊 追刻 荻生徂徠

歡童戲筆 遊言画手本 一名 鳥羽繪早まなび 出来

廣益塵劫記 懷中早寄大全 小本 一冊

新形染彩目 撞花手引 前編出来 前北齋為一筆 後編嗣刻

芝居役者似顔早見古 後編 全一冊 五渡亭國貞画

八文字自笑評 三國之津役者評判記 全三冊 藝名改定役者評判記 三冊 享和元年十三の酉年刊 享和二年刊 享和三年刊

東海道五十三次 役者

即考百籤 全一冊 籤箱漆 弥作作

傾城水滸傳 初編 全二冊 編迄賣出 丑年十月ノ賣出ト 曲亭馬琴作 九編ノ十一編迄寅新板

魁梅枝曽我 全六冊 哥川國安画

天竺の方便妄語 唐土の僧三謀計 日本の神祭恵議 三國妖狐殺生石 哥川國安画

春狂言善惡鏡 全六冊 哥川豊國画

東海道五十三次 花の都路 全一冊 五渡亭國貞画

隅田川西岸一覽 北齋筆 全三冊

江戸名所東鑑 蕙齋筆 全三冊

江戸名所物見丘 清長筆 全二冊

右四通共拾五冊 賣出ス 丑年進物ニ仕ル

彦紫田舍源氏 初編四冊賣出ス 二編三編四編五編 柳亭種彦作 右四通丑年九月ノ賣出 歌川國貞画

美艶仙女香 黒油美玄香 仙女香 京橋大根河岸 黒油美玄香

書物錦繪 團扇紙 江戸通油町 問屋鶴屋喜右衛門

優

三